

. 海外経済

		2020年1月	2020年2月
世界経済		世界の景気は、全体としては緩やかに回復しているが、そのテンポは鈍化している。先行きについては、当面は回復の鈍さが残るものの、全体としては緩やかに回復していくことが期待される。ただし、 <u>通商問題を巡る動向、中国経済の先行き、英国のEU離脱、中東地域を巡る情勢、金融資本市場の変動等によるリスクに留意する必要がある。</u>	世界の景気は、全体としては緩やかに回復しているが、そのテンポは鈍化している。先行きについては、当面は回復の鈍さが残るものの、全体としては緩やかに回復していくことが期待される。ただし、 <u>新型コロナウイルス感染症の影響によって景気が下振れするリスクがある。また、通商問題を巡る動向、金融資本市場の変動等によるリスクに留意する必要がある。</u>
アメリカ		アメリカでは、景気は回復が続いている。先行きについては、回復が続くと見込まれる。ただし、 <u>米中間の通商問題を巡る動向及び影響、今後の政策の動向及び影響、金融資本市場の変動の影響等に留意する必要がある。</u>	アメリカでは、景気は回復が続いている。先行きについては、回復が続くと見込まれる。ただし、 <u>米中間の通商問題を巡る動向及び影響、今後の政策の動向及び影響、金融資本市場の変動の影響等に留意する必要がある。</u>
アジア地域	中国	中国では、景気は緩やかな減速が続いている。先行きについては、 <u>当面は緩やかな減速が続くことが見込まれるが、各種政策効果が次第に発現することが期待される。ただし、米中間の通商問題を巡る動向及び影響、過剰債務問題への対応、金融資本市場の変動の影響等によっては、景気が下振れするリスクがある。</u>	中国では、景気は緩やかな減速が続いている。 <u>そうした中で、新型コロナウイルス感染症が経済活動に影響を与えている。先行きについては、緩やかな減速基調が続く中で、当面、新型コロナウイルス感染症の影響による下振れが懸念される。また、米中間の通商問題を巡る動向及び影響、過剰債務問題への対応、金融資本市場の変動の影響等によるリスクに留意する必要がある。</u>
	その他アジア	韓国では、景気は弱い動きとなっている。台湾では、景気は緩やかに回復している。インドネシアでは、景気回復は緩やかになっている。タイでは、景気は弱い動きとなっている。インドでは、景気は弱い動きとなっている。	韓国では、景気は弱い動きとなっている。台湾では、景気は緩やかに回復している。インドネシアでは、景気回復は緩やかになっている。タイでは、景気は弱い動きとなっている。インドでは、景気は弱い動きとなっている。
ヨーロッパ地域	ユーロ圏	ユーロ圏では、景気は弱い回復となっている。ドイツでは、景気は弱含んでいる。先行きについては、 <u>弱い回復が続くと見込まれる。ただし、通商問題を巡る動向、英国のEU離脱の影響等によるリスクに留意する必要がある。</u>	ユーロ圏では、景気は弱い回復となっている。ドイツでは、景気は弱含んでいる。先行きについては、 <u>弱い回復が続くと見込まれる。ただし、通商問題を巡る動向等の影響に留意する必要がある。</u>
	英国	英国では、景気は弱い回復となっている。先行きについては、 <u>弱い回復が続くと見込まれる。ただし、EU離脱によるリスクに留意する必要がある。</u>	英国では、景気は弱い回復となっている。先行きについては、 <u>弱い回復が続くと見込まれる。ただし、EU離脱の影響に留意する必要がある。</u>

(注) 下線部は先月から変更した部分。